

2013 年度年次報告書



国際青年環境 NGO
A SEED JAPAN



2013/12/22(日)「A SEED DAY 2013～アクション de・つながる人々・大集合～」

2013 年度代表より	3
A SEED JAPAN の使命	4
SEED VISION2030	5
SEED PLAN 2013 年度評価・2014 年度計画 ..	6
ごみゼロナビゲーションチーム	6
エコ貯金プロジェクト	8
ケータイゴリラチーム	10
未来生活 now プロジェクト	12
エネルギーとまちづくりプロジェクト	15
エシカルメタルプロジェクト	15
水源 WATCH! プロジェクト	16
2013 年度の主な実施事業	17
2013 年度組織的ニュース	18
NPO 法人格の取得について	18
Panasonic 助成「組織基盤及び基盤強化事業」	19
アースデイ東京 2014	20
組織概要	21
2013 年度全体決算	23

2013 年度代表より

アメリカの先住民の間には、子どもが1人育つためには100人の親が必要だという諺があるそうです。今、この言葉を前にして、私たちの町を思い浮かべ、なんとも言えないような気持ちになるのです。忙しい人が増え、学び合い語り合いのできない窮屈な時間を共有するようになりました。毎日を漫然と過ごしている訳でも無いのに、目を瞑り一息つくうちに、夢のように時間が流れていきます。多くを吸収し、学ぼうと本を開く間にも、劇的に社会は変化しています。種を蒔けば、勝手に芽が出てきて、ひとりでに育つわけでもない。先述の諺の「子ども」を「社会」に置き換えた時に、この苗を、どう育てていけば良いかは、私たち一人一人に与えられた課題であるように思います。

いつの日か、誰かの親になるまで、私たち若者は誰かの子どもです。厳しく、暖かく見守ってくれる大きな愛に感謝しつつ、親になる時までの準備も欠かせない。人間らしく暮らせる社会をどう作っていくか、今年もA SEED JAPANの若者たちと考えていきたいと思っています。



2013 年度共同代表 浅田 麻衣

現在の社会が目まぐるしく変化しているのはみなさんが実感している通りかと思います。そして、その中で活動しているA SEED JAPANも目まぐるしく変化しています。

2月からは「ごみゼロナビゲーション」がASJのチームとしての活動を終え、新たな団体「iPledge」として活動を始めています。4月よりは「特定非営利活動法人」として組織を運営しています。活動する内容も、ASJに集まってくる人たちの考えや、やりたい事も変化してきていると思います。今、ASJはそのような変化に対応し、これからどのような活動して、そのためにどのような組織体制・運営が良いか、試行錯誤しながら邁進している最中です。去年からPanasonic NPO サポートファンドの助成を受け、組織基盤強化に取り組んでいるのもこの一例です。時には傍から見ていて、至らない点や不安になる点もあるかもしれませんが、私たちもそのようにならないよう努めています。何かご意見等があれば伝えていただけると活動の一助になります。

今後も若い世代が活躍していける組織、ひいてはそのような社会になるように、A SEED JAPANは環境の変化に対応しながら、みなさんと一緒に進んでいければと考えます。これからも様々な形でのご支援をいただけると有難いです。



2013 年度共同代表 梅本 一成

A SEED JAPAN の使命

A SEED JAPAN は、環境問題の中に内在する社会的不公正の解決を目指し、以下のことを踏まえ行動します。

1. 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因は経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2. 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます

私たちは、環境問題や社会的不公正について、またそれらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを、青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3. 長期的視野を持って社会を変えていきます

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPAN は以下の立場を担っていこうという認識を持ち、行動します。

未来世代である青年としての立場

私たちは青年としての立場から、未来世代の利益を訴えていきます。また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことのできる存在として、誇りを持って活動します。

NPO（非営利組織）としての立場

私たちはNPOの一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。そしてNPO全体が相対的に強化されるように、協力していきます。

行政・企業・NPOのパートナーシップを創造していく立場

環境問題を解決するためには、行政・企業・NPOのそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そしてNPO同士のパートナーシップを創造していきます。

世界の青年と協力し合う立場

国境を越えた環境問題に対応するためにも、また”南”の視点を十分に理解するためにも、私たちは草の根で活躍する世界の青年たちと積極的に協力していきます。

Action:

目先の状況にとらわれることなく、社会問題の現場から根本原因を見据えて、長期的視野をもって活動をしていきます。また、未来世代に負の遺産を残さないよう、多様な観点から議論し、政府や企業などあらゆるセクターへ働きかけていきます。

Solidarity:

人種・民族・文化等の社会的立場にとらわれず、互いの違いを認め合うことを大切にし、周縁にいる人々の声を意思決定に反映するために行動します。そして、問題の解決へ向けて多様な糸口を導きだし、協力して問題解決に取り組むことのできる社会を目指します。

Equality:

資本主義の行きすぎによる、世代間・地域間における所得・情報等の格差をなくし、機会の平等と社会的公正を確保して、現在および未来世代の権利を守っていきます。

その権利を守るために必要な役割を、私たちの責任として果たしていきます。

Environment:

現在および未来を生きるあらゆる生命を尊重し、予防原則に基づいて、未来世代の権利を損なわない地球環境を創ります。経済発展の裏側で深刻化する自然環境および人間環境の破壊を止め、自然と共生できる社会を目指します。

Development:

小さな利益を皆で分け合うことで多くの安心を生みだすことに価値を置く社会を目指します。そのために市民が果たすべき責任に対して主体的に向き合い、権利を主張できる社会を形成します。これを「新しい開発」と定義し、実現していきます。

SEED VISION 2030 策定の経緯

ごみゼロナビゲーションチームの分離・独立、ASJのNPO法人化などに向けて、改めてASJの目指す社会とそのためのアクションについて考える必要性を感じたメンバーにより2013年7月「未来委員会」が発足しました。そこで、私たち自身がどんな社会で生きていきたいか、ASJとしてどのような社会を目指すべきか議論が重ねられ、2013年12月1日ASEED JAPANが2030年までに目指す社会を記した「SEED VISION 2030」を策定しました。

ごみゼロナビゲーションチーム 2013年度SEED PLAN 評価

長期目標

野外イベントの環境対策活動を通して、ワカモノの本気を引き出し、次世代を担う人材を育成します。ASJの使命を大切に、革新的で、対等な意識を持って公正な社会を作る人材を育成します。

「個人」と「社会のしくみ」という2つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

短期目標

目標	音楽フェスティバル・環境イベントを中心に、イベントをより環境負荷の低い参加型の場にしていきます。
達成度	90%
成果	2013年は20本以上のイベントで活動を実施し、またその内音楽イベント以外の分野で5本以上の活動を実施します。 ★20本、106,3000人の来場者
目標	新しいアクションの提案として、マイ食器マイボトルをイベントに持参する事を呼びかけるweb、冊子などを作り推進していきます。
達成度	80%
成果	★各実施内容に違いはありましたが、総計12本のイベントで「マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう！」を展開できました。初年度の今年、象印及びコールマンの企業協賛を得ることができ、マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう！の特設webサイト、フェス来場者向けパンフレットなどを作成できた。4月に行ったアラバキではごみゼロが実施するキャンペーンでの展開に止まったが、9月開催した京都音楽博覧会では主催者の全面的な協力により、主催者からの呼びかけも行われ、会場にブースも展開でき、多くの来場者がマイ食器を持参しました。
目標	ecoアクションキャンペーンブースでは10,000名以上の来場者にecoアクションを提案します。
達成度	65%
成果	★ap bank fesの減少などを受けて、6,541人の参加となりました。
目標	年間1,000名以上のボランティアとともに活動を実施します。活動するボランティアの内、5割以上を新規参加者に活動してもらうことで、ボランティア活動に参加するキッカケを提供します。
達成度	100%
成果	★1,143人のボランティアが参加。★新規参加者が58%になりました。
目標	【リユース活動】 ・2013年は8本以上のイベントにリユース食器を導入することを目指します。来場者に対してリサイクルを行うより、リユースの方が環境に良いことを呼びかけることで、「使い捨てのライフスタイル」を変えていきます。 ・イベント主催者が使い捨て容器をやめ、リユースできる食器を使い始めることで「社会のしくみ」を変えます。
達成度	75%
成果	★合計5本のリユースイベントに参加し、58,884枚の食器を削減 ★新規イベントでのリユース活動はできませんでしたが、夏開催されたアースガーデンにて初めて活動を実施できました。
目標	【LIVE ECO】 ライブハウス・クラブで300店舗以上、それ以外の分野も含めて400の場所にリユースカップを導入します。
達成度	80%
成果	全国380店舗/施設にリユースカップを導入しました。 営業活動やwebサイトの追加記事などを一切行わず依頼数が減少しています。来年度は対策を打つ予定です。
目標	【青年の人材育成】ワカモノが本気で活動できる場をごみゼロナビゲーション以外にも作るために、様々なNPOや青少年団体を訪問し、ディスカッションします。
達成度	85%
成果	★ETIC、ezorock、森の生活、NICE等を訪問し、代表とのディスカッションなどを実施し、8月にふくしまキッズ@北海道の活動をサポートし数名のコアスタッフを派遣、石狩で開催したRSRに3年ぶりに8名のコアスタッフが参加して、ezorockの活動に参加した。また、11月にはNPO法人森の生活と共催で「マイ食器手作りツアー in 下川の森」を下川町役場の協賛の元、東京から7人、札幌から2人の参加を得て実施できました。2014年度も実施予定です。

目標	【青年の人材育成2】他の団体とのコラボを進めるためにも、最低2団体と共同のワークショップを行います。具体的には、仙台ベースのボランティアインフォと組んで音楽ボランティアの横断的なつながりを作るワークショップを5月19日に開催予定です。
達成度	100%
成果	★仙台宮城エリアのイベントで活動するボランティアインフォ、とっておきの音楽祭、ジャズストリートフェス、アラバキロックフェスなど4つのイベントに参加するボランティアが一同に会し、自己紹介、課題の抽出と解決へのディスカッションなどを行いました。 ★11月には9名の参加者を迎え森の生活と共催で「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施。森を育み、森を頂くをテーマにごみゼロナビゲーションに参加するボランティア向けにアンケートを実施し、ワカモノのニーズ調査を行いました。活動に参加する前と活動後にそれぞれ行い意識の変化も調査しました。
目標	【青年の人材育成】青年のおかれている立場や現代の課題/問題や青年自身の意識調査を行います。……………
達成度	100%
成果	ごみゼロナビゲーションに参加するボランティア1000人にアンケートを実施し、どんな目的で参加するのか、なぜ複数回(リピート)参加するのか、ボランティアの動機や欲している情報/スキルなどの調査を実施できました。
目標	【独立に向けた準備】20年活動したA SEED JAPANを卒業し、独立する
達成度	100%
成果	発起人会を6月に立ち上げ、8月、11月と合計三回の会議を行い、独立に向けた準備を進め、名称、法人格の有無、規約、目的、事業などを議論し、NPO法人取得に向けて組織の整備を行い、2014年1月23日に正式にiPledge(アイプレッジ)を設立することができました。

年間活動

結果	4月：アースデイ東京、アラバキロックフェスにて活動、ボランティアアンケートを開始 5月：仙台にて東北ボランティアの集い開催 6月：第一回発起人会を実施(発起人6名が議論を開始)、 7月：フジロックフェスティバルにて新企画サンデーナイトコースを新設 8月：ezorock コーディネイトの元、コアスタッフ3名がFUKUSHIMA KIDSに参加 5年ぶりにライジングサンロックフェスティバルにコアスタッフが参加 第二回発起人会を実施(名称が決定する) 9月：京都音博にてマイ食器持参呼びかけを行いブース出展を実施、ソーラーBUDOKANにて活動 11月：NPO 森の生活と共催して「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施。第三回発起人会を実施 1月：23日に設立総会を開催し、正式にNPO iPledgeを設立 2月：14年間使ったASJ事務所から原宿オフィスに移転し、2/17より業務開始 3月：東京都公園協会との初コラボ活動「お花見クリーンキャンペーン」を実施
----	--

総括

A SEED JAPANからの独立を目標に活動した1年となりました。通常の活動を行いながら独立に向けた発起人会を継続して実施できたことで、何とか1月にiPledgeを設立することができました。設立に向けた準備、調査を同時並行で実施していたにもかかわらず、「マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう!」という新企画の立ち上げ、来場者向け冊子、webサイトを作成できました。新たに象印、コールマンからの協賛獲得もできました。夏には姉妹団体でもあるezorockに協力してFUKUSHIMA KIDSに活動にスタッフを派遣し、コアスタッフの新たな可能性に挑戦できました。11月には「森から学び、森を頂く」をテーマに「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施できたことは、他団体とのコラボ活動を推進していく大きなきっかけとなりました。

NPO iPledge について

Pledgeという言葉は、「決意する、誓う、固い約束」という意味です。若者が活動や社会に対して熱意を持った「決意」が生まれる場を作っていきたい。という意味を込めて、「iPledge」と命名しました。

会員数：104名(正会員24名 準会員80名)

理事：羽仁カンタ(代表)、濱中聡史(事務局長)、青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所)

草刈良允(社会人)、草野 竹史(NPO法人 ezorock)、木村真理子(認定NPO法人カタリバ)

監事：星野智子(NPO職員)、濱野泰嘉(弁護士)

職員：羽仁カンタ、濱中聡史、江口晴彦、小高麗奈、草刈良允

設立：2014年1月23日 理事及び監事、会員数名が参加して設立総会を開催

オフィス：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-34-308 TEL：03-6804-3003/FAX：03-6804-3004

エコ貯金プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

目標	提言：公開アンケートを金融機関（メガバンク、主要地方銀行等）に送付し、フェアで公正な社会づくりに向けた金融機関側の取り組みを促進します。
達成度	70%
成果	11月に国内220の金融機関に対して、環境問題や社会問題への対応、金融機関の将来像まで幅広く問いかける公開アンケートを送付し、金融機関に対して社会性を持った行動をとるよう訴えました。合計21社の金融機関から回答が寄せられ、その回答と講評はウェブサイト等で公開予定です。
目標	啓発：環境イベントへのブース出展や、雑誌等への執筆等の方法を通じて、エコ貯金の考え方をより多くの市民に広めます。
達成度	100%
成果	<ul style="list-style-type: none">・4/20, 21に開催されたアースデイ東京2013（来場者数9万人）に中央労働金庫、東京CPB、オイコクレジットとともにブース出展をし、来場者にエコ貯金の考え方を紹介しました。・一般財団法人 ゆうちょ財団が発行する季刊誌「個人金融」2013年春号に近藤、土谷が「エコ貯金への取り組み」と題した記事を寄稿しました。・パタゴニア日本支社の環境助成金プログラム「ボイス・ユア・チョイス」の2013年度の助成先にも選ばれ、9/5から10/2の約1ヶ月間、パタゴニア渋谷ストアの店内でエコ貯金の事についての展示及び、パタゴニアのスタッフの方によつての説明が行われる機会が設けられました。さらにパタゴニア渋谷ストアの店頭で9/7と9/21の2回、ブースを出店し、パタゴニア渋谷ストアに来店された方に、エコ貯金プロジェクトメンバーが直接エコ貯金の事について説明しました。・10/26に開催された東京CPB設立10周年記念シンポジウムに小野塚が登壇し、エコ貯金及び、エコ貯金プロジェクトの活動について話しました。
目標	啓発：NPOバンクについての情報を市民に提供し、預金先の選択肢を広げます。
達成度	80%
成果	<ul style="list-style-type: none">・NPOバンク（未来バンク、東京CPB、女性・市民コミュニティバンク）へのヒアリング結果を元に、ウェブサイトにて市民に向けてNPOバンクの情報を公開しました。また、そのヒアリング結果の報告会と、お金の流れを身近に感じてもらうためのワークショップを開催しました。20名の方にご参加いただき、開催後の参加者アンケートでもほぼ全員が満足に感じられたようでした。

年間活動

結果	4月：アースデイ東京2013に中央労働金庫、東京CPB、オイコクレジットとともにブースを出展。 5月：季刊誌「個人金融」2013年春号に記事を寄稿 9月：パタゴニア渋谷ストアにて展示と店頭ブース出展 10月：東京CPB設立10周年記念フォーラムに小野塚が登壇 11月：国内金融機関に公開アンケートを送付 2月：NPOバンク報告会とワークショップを開催
----	--

総括

1年間を振り返ってみると、提言活動よりも普及・啓発活動の比率が多くなっています。提言活動と普及・啓発活動は、エコ貯金プロジェクトの活動の両輪だと考えるので、提言活動もより多く行えればと思っています。

今年度の活動の中には、過去にA SEED JAPANが活動してきた中でできた他団体との関係性から生まれた活動もありました（東京CPB、パタゴニアなど）。このような関係性を今後も大切にしながら活動をし、将来の活動をより活性化させるよう善処したいと考えます。

エコ貯金プロジェクト 2014 年度 SEED PLAN

長期目標 (2030 年までに達成するミッション)

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

- ・日本でのバンクワイザーの活動を推進することによって、お金の流れを使って社会をより良くしていく仕組みの構築を目指します。その第一歩として、バンクワイザーのことを日本中に周知し、バンクワイザーのウェブサイトに誘導します。ウェブサイト立ち上げに際してのイベントにおいて、100 名以上の参加者を呼びます。1日のウェブサイトアクセス数を 1000 アクセス目指します。
- ・預貯金先を選ぶ際、社会性をもって選ぶことを身近に感じてもらい、エコ貯金を始めるきっかけを作ります。年に 2 回、お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催し、各 20 名以上の参加者を呼びます。
- ・ウェブサイト閲覧者やイベント参加者に対して、ツイッター・フェイスブック等の SNS を利用して、社会性を考慮に入れた結果、今預けている金融機関から他の金融機関にいくら預け替えました、という内容の発信をしてもらい、発信する人の数を 400 名以上目指します。
- ・日本でのバンクワイザーの評価対象となっている 5 行の金融機関のうち 2 行以上が CSR ポリシー（社会的責任を果たすための企業方針）の見直しを検討し始めることを目指します。

年間計画

- ・アースデイ東京に青年団体・NPO バンクと共同出展し、エコ貯金を普及啓発します
- ・お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催します
- ・民間金融機関・NPO バンク等の環境金融に関する新たな動向を調査し、市民に向けて発信します
- ・青年層を中心とした市民を対象として企業・金融機関担当者、NGO 担当者を招き、持続可能な社会に向けた金融に関する普及啓発・意見交換を目的としたセミナーを開催します
- ・金融機関担当者・政策立案担当者・NGO・市民を対象とした Bankwiser を絡めたダイアログを開催します。
- ・Bankwiser の内容を青年・市民に紹介するパンフレットを作成します
- ・環境・金融に関心のある青年・市民を対象とした、Bankwiser 普及啓発セミナー開催します
- ・民間金融・Bankwiser・NPO バンク等の非営利金融機関の新たな動向を体系的にまとめた冊子を作成します
- ・Bankwiser を普及啓発するために、エコプロダクツに出展します

ケータイゴリラ 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

「地球上の多様な生物の生きる権利が等しく尊重される社会」の実現を目指し、「ケータイ」と「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けた仕組み作り・市民啓発活動を継続的に行います。

短期目標

目標	不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行います。
達成度	95%
成果	2013 年度で約 2,200 台の携帯電話の回収を行いました。これはケータイゴリラが活動を開始した 2008 年度に次ぐ回収台数で、要因としては約 1,200 台の法人回収を行ったからだと考えられます。法人からの一括回収は、回収台数を増やす上で重要な手段だと位置づけており、今後も増やしていきたいと思います。今年度は新たな携帯回収の取り組みとして 7 月から翌年 2 月まで毎月アースデイマーケットに出展しました。来年度は資源の有効利用という点で、今年度は約 10 台しか実施できなかったリユース回収も増やしていければと考えています。
目標	社会や環境に配慮した携帯電話を製造するよう、家電製品製造企業、携帯電話キャリア(※)に働きかけます。 ※携帯電話の通信サービスを提供している会社のこと。NTT DoCoMo、au、Softbank など。
達成度	10%
成果	エシカルケータイ実行委員会の活動に、ケータイゴリラのメンバーが関わることはできましたが、上記目標を実施することはできませんでした。同目標についてはエシカルケータイ実行委員会を中心にやっていければと考えています。
目標	ワークショップなど参加型の市民啓発活動を通じて持続可能な資源利用を求める市民の数を増やします。
達成度	95%
成果	アースデイ東京 2013、アースデイマーケット、エコプロダクツ 2013 などのイベントへの出展を通じて、市民への啓発活動を行いました。アースデイマーケットへの出展は 7 月から翌年 2 月まで毎月行い、より多くの市民に触れる機会を得られました。これらのイベント出展を通じて、問題の啓発は実施できましたが、その後に行うアクションを提供できなかったため、今後の課題としたいと思います。
目標	マウンテンゴリラの保護に関して、他団体と連携してより現地に貢献できるような体制を構築します。
達成度	65%
成果	アースデイマーケットなど他団体の運営するイベントに数多く出展し、協力して携帯電話の回収を行う関係を構築できました。しかし現地に貢献できる新たな体制を構築することはできなかったため、今後の課題としたいと思います。
目標	現地の NGO と連携して支援活動を行うために、彼らとの話し合いの場を持ちます。
達成度	90%
成果	現地 NGO であるボレボレ基金から Dr. Augustin K. Basabose / オーガスティン・バサボセ氏を招いて勉強会を開催し、両団体の活動の報告を行いました。コンゴ民主共和国やゴリラ保護の現状を知る機会になり、両団体の交流も図ることができました。今後は同団体と連携して具体的な支援活動を検討していければと考えています。

年間活動

結果

- 4月：アースデイ東京 2013 にブース出展、トークステージに参加
- 7月：アースデイマナーに登録、以後1月まで毎月アースデイマーケットに出展
- 11月：子どもとためす環境まつりに出展
- 11月：ポレポレ基金のバサボセ氏を招いて勉強会を開催
- 12月：エコプロダクツ 2013 に出展
- 3月：神奈川総合高校に講師派遣

総括

2013年度は2012年度に引き続き、使われなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、コンゴ民主共和国の現地市民の支援やゴリラの保護活動を支援するために寄付金額を増大させるという目標を立てて活動を行いました。法人回収5件と月1回のアースデイマーケットに加え、エコプロダクツ 2013 やアースデイ東京 2013 などでの回収を通じて2,200台の携帯電話をご寄付頂くことができました。

また、今後の寄付戦略に関して11月に行ったポレポレ基金との勉強会から発展し、2014年度にはコンゴ民主共和国に赴いた調査研究を行う運びとなり、現地のニーズをより具体的に掘り起こしていくための端緒となりました。

一方で、チームとしてのキャリアへのアクションは具体的な計画を立案するに至りませんでした。このことを機にメンバー間で、ケータイゴリラという寄付型事業が今後企業へ働きかける要素も含みどのような発展をすべきかといった議論が喚起されました。この点に関しては来年度も継続議論を行っていきます。

ケータイゴリラ 2014年度 SEED PLAN

長期目標

中央アフリカの紛争地域に暮らす人々が不条理に脅かされず、ゴリラとの共生を選べる社会を目指します。

短期目標

- ・携帯電話が引き起こす問題について知っている人を500人以上増やします。
- ・紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を明らかにし社会に発信します。
- ・年に数回のブース出展や法人回収を通じて、不要な携帯電話1500台をリサイクル、リユース回収します。
- ・事業で得た収益を現地NGOに20万円寄付し、ゴリラと人間の共生を促進する取り組みを支援します。

実行手段

- ・アースデイ東京 2014 やエコプロダクツ 2014 などのイベントでブース出展を行います。
- ・Twitter やブログ、facebook (ASJ アカウント) による情報発信を継続的にを行います。
- ・ワークショップや講師派遣などの市民啓発活動を5回以上行います。

未来生活 now プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

経済の持続可能性を目的とする「グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「ライフ・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。そして、化石燃料を盲目的に使用し成長を過剰に追及するような経済である「ブラウン・エコノミー」に節度を求め、地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方としての「ライフ・エコノミー」の主流化を実現します。

短期目標

目標	・「グリーン・エコノミー」のプレイヤーである企業/団体30以上と、「ライフ・エコノミー」のプレイヤーである農家/団体30以上とのネットワークを形成し、対話と連携を促進することで「東京における生命を大事にする地域自給社会」を主流化します。そのために、首都圏（特に新宿エリア）のCSR推進企業（飲食・流通業、金融業、メディア情報通信業（メディア）、資源・エネルギー関連業等）と、首都圏の有機生産者の協働による、新宿エリアでの勉強会/物販企画を継続的に実施します。
達成度	68%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パタゴニア・中央労働金庫・オルタナなどのグリーンな企業と、全国有機農業推進協議会・東京コミュニティパワーバンク・アースデイ東京などライフな団体との連携を深め、「東京だから出来る有機のまちづくり」というコンテンツとして結実させ、アースデイ東京 2014 において、「ワカモノ×ミライ」という合同出展を企画するに至りました。 ・有志としての位置づけにはなりましたが、「福島発・持続可能な社会への提言」というテーマで、新宿を中心とするネットワークを構築できました。新宿区における有機農業推進・福島復興支援をテーマとする活動の認知度が向上しました。 ・「Post2015/SDGs」をテーマに勉強会を2度開催し、NGOのネットワークのユースセクションとして責任ある立場を担う事が出来ました。オルタナティブとして「持続可能地域目標」のドラフトを作成する事が出来ました。 ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」という提言を明文化する所まで至らず、次年度に持ち越しとなりました。

実行手段

目標	1) 連携・協働の場の設定（勉強会・シンポジウム・物販・その他出展） 「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会・物販企画を6回以上実施します。
達成度	90%
成果	アースデイ東京 2013、No More Fuck`in Nukes、Fuji Rock Festival、ふくしまオーガニックフェスタの4つのイベントでブース出展しました。8度のフォーラム/セミナー、2度の主催ツアー合宿、その他合同あるいは他団体と協力してのトレーニング/セミナーを3度実施し、合計700名以上の参加を得ました。
目標	2) 人を巻き込む活動（ツール開発・啓発・メンバー募集） ・ウェブ/アプリ、冊子/パネル等を制作し、メンバー募集と啓発のためのブース出展を、6回実施します。
達成度	65%
成果	2012年12月に制作した冊子「エコライフからミライフへ」をパネル化し、引き続き冊子を1,000部配布しました。ダウンロード版は2014年度に持ち越しました。
目標	3) 「ライフ・エコノミー」主流化のための提言活動 ・東京都/新宿区に対し、有機農業推進に関する政策提言を行います。 ・12月に開催されるエコプロダクツ展において、ASJチーム連携に基づくブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、ASJの提言を発信します。
達成度	50%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」という提言を明文化する所まで至らず、次年度に持ち越しとなりました。 ・活動資金を十分獲得できず、エコプロダクツ展でのブース展示、フォーラム企画は断念し、メンバーが参加し、資料をもって企業ブースを回るにとどまりました。代わりにアースデイ東京 2014に合わせ、横断企画「ワカモノ×ミライ」を実施しました。 ・「Post2015/SDGs」をテーマに勉強会を2度開催し、NGOのネットワークのユースセクションとして責任ある立場を担う事が出来ました。オルタナティブとして「持続可能地域目標」のドラフトを作成する事が出来ました。

年間活動

結果

- 4月：アースデイ東京 2013 に出展
- 5月：有志で「東京有機マルシェ・すずめの未来市」開始(以降、毎月開催※)
西武信金物産展に出展
- 6月：第5回東京アフリカ開発会議(TICAD5)にメンバーが参加
- 7月：No More Fuck`in Nuke、Fuji Rock Festival・NGO ビレッジに出展
地球環境パートナーシッププラザで展示・セミナー
- 8月：新宿 NPO 協働推進センターまつりで出展・小フォーラム実施
- 9月：有志で会津の有機農家・浅見彰宏さんを囲む会
- 10月：丸の内さえずり館で展示・セミナー(2回)、持続可能開発目標(SDGs)セミナー
- 11月：活動合宿、歌舞伎町農山村ふれあい市場、ふくしまオーガニックフェスタに有志で出展
- 12月：A SEED DAY でSDGs セッションを担当
アースデイ東京 2014 に向け「ワカモノ×ミライ」を始動
- 1月：エンカルケータイ実行委「タックスヘブン」勉強会
- 3月：「ワカモノ×ミライ」セミナー、SDGs/Post2015 NGO 世話団体会ユースセクションを立ち上げ
※5月から11月まで、毎月1回、有志で「東京有機マルシェ・すずめの未来市」を開催。埼玉県小川町や福島県二本松市の有機農家の農産物を販売し、交流会を開催。

総括

設立2年目となる2013年度の「未来生活 now」プロジェクトでは、A SEED JAPAN の過去の国際会議における「経済をエコロジーに」する提言キャンペーンを踏襲し、グリーンな経済のプレイヤーであるCSR企業に対し、地域自給社会へのシフトを提言するキャンペーンをめざし、横断的な活動を展開しました。「今すぐ廃炉・今こそ有機」をキャッチコピーに、東日本大震災と放射能汚染による国内情勢を踏まえつつ、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくりの主流化」に共感する青年・NGO・CSR企業・農家とのネットワークを深めました。またA SEED JAPAN が2000年代に掲げてきた「買う・働く・貯金するエコライフ」を進化させた「未来の生命のためのモノ・カネ・情報のミライフ」による啓発活動も2年目となり、認知度を向上させました。

同時にA SEED JAPAN の組織改革にもチームを挙げて積極的に取り組みました。新宿エリアにおける地域展開、アースデイ東京2014でのチーム横断・ユース団体横断による「ワカモノ×ミライ」エリア、NGOとのネットワークを活かした「エンカルケータイ実行委」、原子力市民委員会ユースとの連携など、A SEED JAPANらしい活動を展開できた1年でした。設立3年目となる2014年度は、これらの「新たな活動の芽」を育て、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくりの主流化」をテーマとする提言・啓発キャンペーンの立ち上げに挑みます。

未来生活 now プロジェクト 2014 年度 SEED PLAN

長期目標：誰もが「ミライフ=未来の生命(ライフ)につながる生活(ライフ)」を生きることができる世界へ

- 1) 日本の青年と力を合わせて、世界の課題先進国・原子力災害被災国である日本の地域社会を、「生命を大事にする責任ある地域自給社会」へと転換します。
- 2) 東京の青年とグリーンな企業とNGOが力を合わせて、有機農業をはじめとする環境保全型農業、地域に根差した再生可能エネルギー、有機的な人のつながりから生まれる健康で安心な地域づくりの実践を進め、東京における「生命を大事にする責任ある自給社会づくり」を一般化します。
- 3) 上記の提言と実践を通して、国際社会が「持続可能地域目標(Sustainable Community Goals)」を定め、過剰な農薬・化学肥料・化石燃料・紛争鉱物・原子力発電・遺伝子組み換え等のリスク規制を強化する仕組みを創造します。

短期目標(2014-2015)：「農と言え日本人へ！君の自立・ぼくの自立がふるさとの自立」

- 1) 「生命を大事にする責任ある自給社会」を創造する東京、福島、青森、およびその他の地域の青年をネットワークし、青年が地域の現場にアクセスできる仕組み(ツアー)を作ります。
- 2) 「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」に賛同する青年、企業、NGOをネットワークし、新宿を中心に「ミライフ=未来の生命につながる生活」を始めるための場(農家市)を創ります。
- 3) 2014年9月に予定している国連総会での「国連持続可能開発目標(SDGs/Post2015)」の議論において、東日本大震災の教訓を踏まえた「持続可能地域目標(Sustainable Community Goals)」を提言し、賛同する青年・企業・NGOを募り、日本政府に「生命を大事にする責任ある自給社会」への転換を働きかけます。

実行手段

- 1) 連携・協働の場の設定（農家市・勉強会・シンポジウム・物販・その他出展）
 - ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会／物販企画を実施します。
- 2) 人を巻き込む（ツール開発・啓発・メンバー募集）
 - ・ミライの趣旨を裾野広く伝えるためのウェブ、アプリ、冊子、パネル等を制作し、ブース出展を通して、メンバー募集と啓発を行います。
（アースデイ東京 2015、アースデイマーケット、土と平和の祭典、エコプロダクツ 2015 ほか）
- 3) 提言活動
 - ・Post2015/SDGs の国際交渉を追いつつ、2015 年 3 月の世界防災会議 in 仙台のタイミングを活かして日本政府/東京都/新宿区に対し、「生命を大事にする地域自給社会づくり」の政策提言を行います。
 - ・チーム連携や青年団体横断でのブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、提言を発信します。金融機関やメーカー企業に対し公開質問を行います。

年間活動

- 4 月 アースデイ東京 2014 に出展、有志で毎月 11 日に復興の集い「結イレブン」を定期開催
- 5 月 「ワカモノ×ミライなエネルギー」セミナーを実施、六ヶ所村スタディツアー「地域と都市の未来ある選択と連帯を探る旅」を実施
- 6 月 SDGs/Post2015 ユース提言勉強会を実施、有志で農山村ふれあい市場に出展、六ヶ所村ツアー報告会を実施、アースデイマーケットにアクションブース出展（以降、毎月実施）
- 7 月 有志で福島農家市スタディツアーを実施、ソーシャルファイナンスセミナーを実施
- 8 月 提言アクション勉強会&合宿
- 9 月 ASJ 法人化フォーラムで企画担当、国連総会・SDGs/Post2015 会議で提言アクション（ワカモノ×ミライ企画）
- 10 月 東京・六ヶ所・福島のユースのためのツアー、土と平和の祭典に出展、ソーシャルファイナンスセミナーを実施、ワカモノ×ミライな地域目標シンポジウム
- 11 月 小川町オーガニックフェスタに出展、ASJ 法人化フォーラム/A SEED Day に企画参加、PARC 自由学校「口座を変えれば世界が変わる」連続講座(3回)に協力
- 12 月 バンクワイザージャパン発足イベントに協力、エコプロダクツ 2015 に出展（ワカモノ×ミライ企画）
- 2 月 世界防災会議 in 仙台カウンターイベント開催（ワカモノ×ミライ企画）
- 3 月 ASJ 改革合宿で企画協力
- 4 月 アースデイ東京 2015 に出展

エネルギーとまちづくりプロジェクト 2014年度 SEED PLAN

長期目標（2030年までに達成するミッション）

化石燃料由来のエネルギー等の利用について改めて見直し、再生可能なエネルギーを誰でも選択し、利用できる持続可能な社会を目指します。そして、市民として、身近な市区町村単位での小規模な地域コミュニティの自治に関わるきっかけが見えやすい、参加型社会を創っていきます。

短期目標

- ・日本各地で生まれている地域分散型のエネルギー自給の取り組みについてワカモノに普及啓発を行い、地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やします。
- ・首都圏において市民発電所の取り組みをしている団体とこれからの自然エネルギー普及について話し合う場をつくります。
- ・地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進するために、地域の制度および政府の政策に働きかけます。

実行手段

- ・自然エネルギー（発電所）やエネルギーの消費量を抜本的に見直す省エネ（節電所）への取り組みに関するセミナーやイベントを3回以上開催します。
- ・首都圏における市民発電所の取り組みをしている団体や自治体の方にインタビューを行い、その記事をHP等で年5回以上発信します。
- ・地域・市民主導で、地域の特徴に沿ったあらゆる自然エネルギー普及を促進する固定価格買取制度（FIT制度）を実現するべく政策提言を行い仕組みに働きかけます。

エシカルメタルプロジェクト 2014年度 SEED PLAN

長期目標

環境やコミュニティ・人々を傷つける鉱物採掘をストップさせ、エシカルな資源利用が行われる社会を目指します。

短期目標

- ・金属を使用する製品製造に関わる企業における、調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取り組みの調査および意見交換を実施し、より根本的な取り組みを促します。
- ・エシカルケータイキャンペーンの実行委員会メンバーとしてエシカルケータイキャンペーンを推進し、採掘の問題の認知を広めます。

実行手段

- ・調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取り組みに関する公開質問状の送付・公開を、エシカルケータイキャンペーンと協力して行います。
- ・公開質問状回答企業に対して、5社以上と個別の意見交換を行い、今後の方向性と提言内容を検討します。
- ・鉱山開発の事例に関する勉強会・セミナーを、この問題に取り組むNGOと協力して2回以上実施します。
- ・『「エシカル」なものを使う』ことを市民・企業に働きかけるイベントをエシカルケータイキャンペーンと協力して行います。（2月）

水源 WATCH！プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

企業、行政、消費者、学生、NPO、NGOを含む市民が水源枯渇の問題と市民各々にとって実践的な解決方法を認知し、実行していて、かつ協働して地下水源が持続的に利用され、健全に循環されている状態にします。

短期目標

目標	水源地で起きている過剰取水などの問題や将来起こり得る問題を市民に対して広く伝えます。
達成度	60%
成果	・8月3・4日に代々木公園で開催された OCEAN PEOPLES 2013(来場者:55,000 名)、および 12 月 11～13 日に東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ 2013(来場者:169,076 名)にて、海や川の「流域環境保全」に関わる6団体(NPO 法人ワールドオーシャンズデイ、コーラル・ネットワーク、公益財団法人 WWF ジャパン、公益財団法人日本自然保護協会、アイサーチ・ジャパン、特定非営利活動法人 荒川クリーンエイト・フォーラム)と共にブース出展を行いました。結果、海や森との循環も含めたより広い視点で、来場者に水源地が直面している問題について伝えることができました。 * NPO 法人ワールドオーシャンズデイが主催する『環境イベントを活用した計画・実践・評価の PDCA サイクル体験による NPO の組織基盤強化と連携体制構築』プログラムに参加しました。
目標	水保全の新たな仕組みを作り出し、世の中に広めていきます。
達成度	0%
成果	チャリティーベンダー(※)の設置に関しては、実施に向けた活動ができませんでした。 (※チャリティーベンダー……自販機で売られている飲料水の価格を通常よりも数十円高く設定し、その差分を水源保護活動に寄付する仕組み)

年間活動

結果	2013 年8月 :OCEAN PEOPLES 2013 に出展(※) 2013 年 11 月 :ソリューション会議に参加(※) 2013 年 12 月 :エコプロダクツ 2013 に出展(※) 2014 年1月 :フィードバック会議に参加(※) ※NPO 法人ワールドオーシャンズデイが主催した「環境イベントを活用した NPO のスキルアップ トレーニングとネットワーク構築プログラム」の一環として参加。他参加団体は、荒川クリーンエイト・フォーラム、Clear Water Project、コーラル・ネットワーク、日本自然保護協会。 2014 年3月 :プロジェクトを解散
----	--

総括

今年度ももちまして、水源 WATCH！プロジェクトは解散いたします。

2010 年 3 月にプロジェクトを立ち上げてからの 4 年間、「私たちの日常生活、農業や工業、そして生態系にとって必要不可欠な水を育む水源を次世代にわたって管理・保護し続けていくための、統合的な制度作りや市民参加型の管理体制の実現を目指す」という目標のもと、啓発および提言活動を行って参りました。

啓発活動としては、トークイベント・セミナーを 6 回、音楽フェスティバル等でのブース出展を 7 回、そしてフォーラムを 1 回、開催することができました。水と私たちとのつながりを知ってもらい、身近な水問題について考え行動してもらう機会をつくることができました。

提言活動としては、清涼飲料水を製造・販売している企業 48 社に対して、各取水源における地下水取水に関する公開質問状を送付し、13 社から回答を得ることができました。公開質問状の回答は、WEB での掲載およびブース出展を通して回答結果を公開しました。セミナーという場を通して企業、市民、NGO、行政の方たちとみんなの水をどのように守っていくかについてディスカッションを行うことができました。

私たちが活動を続けてきた背景には、つねに、プロジェクト立ち上げのきっかけでもある山梨県北杜市へのスタディツアーがありました。現地で目の当たりにした、住民の井戸水が汚濁・枯渇するという問題、そして取水を行う企業と住民の間での情報共有・対話が十分に行われていないという現状は、忘れることができません。

プロジェクトは解散しますが、日本で暮らす 1 人の市民として、これからも日頃の水利用に意識を巡らせ、「水はだれのものか」という問いに向き合い、社会に働きかけていきたいと思えます。

4 年間、私たちが活動を続けてこられたのは、みなさまから多大なるご支援・ご協力のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

水源 WATCH！プロジェクト メンバー一同

2013年度の主な実施事業

日付	活動主体	活動種類	活動内容
4月20日 -21日	エコ貯、未来生活、 ケータイゴリラ	ブース出展	アースデイ東京 2013(代々木)
	ごみゼロ	環境対策	
4月27日 -28日	ごみゼロ	環境対策	ARABAKI ROCK FEST.13' (宮城県)
5月18日 -19日	ごみゼロ	環境対策	ONE LOVE JAMAICA FESTIVAL(代々木)
6月1日 -2日	ごみゼロ	環境対策	頂 ITADAKI2013(静岡県)
6月1日	未来生活 now	国際会議	アフリカ開発会議 TICAD5 に有志メンバー参加(横浜)
6月1日 -2日	ごみゼロ	環境対策	エコライフフェア 2013(代々木)
6月29日	ごみゼロ	環境対策	渚音楽祭 東京 2013(調布)
7月6日 -7日	ごみゼロ	環境対策	earthgarden 夏(代々木)
7月10日	未来生活 now	企画展示	東京だからできる有機のまちづくり展(8/10まで、地球環境パートナーシッププラザ(GEOC))(渋谷)
7月13日	未来生活 now	ブース出展	渋谷 AX 「No More Fuxxin Nukes」(渋谷)
7月26日 -28日	ごみゼロ	環境対策	FUJI ROCK FESTIVAL 13' (新潟県)
	未来生活 now	ブース出展	
8月4日	未来生活 now	ブース出展・セミナー	「新宿発！食卓を変えれば未来が変わる」in 新宿 NPO 協働推進センターまつり(新宿)
8月10日 -11日	ごみゼロ	環境対策	SUMMER SONIC 2013 OSAKA(大阪府)
8月10日	未来生活 now	セミナー	東京だからできる有機のまちづくり～世界の TOKYO にゆうきのネットワークを(渋谷)
8月16日 -17日	ごみゼロ	環境対策	RISING SUN ROCK FESTIVAL2013 in EZO(北海道)
8月31日	ごみゼロ	環境対策	RUSH BALL 15th(大阪府)
9月2日	未来生活 now	企画展示	エコライフからミライフへ～東京だからできる、有機のまちづくり(10/30まで、丸の内さえずり館)(有楽町)
9月5日	エコ貯金	企画展示	パタゴニア助成金プログラム「ボイス・ユア・チョイス」(渋谷)
9月21日 -22日	ごみゼロ	環境対策	中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2013(岐阜県)
9月22日	ごみゼロ	環境対策	京都音楽博覧会 2013(京都府)
9月27日	未来生活 now	セミナー	丸の内さえずり館 企画展示関連セミナー「始めよう！未来生活 now」(有楽町)
10月5日	未来生活 now	セミナー	SDGs と持続可能な地域～ユースによる未来への提言に向けたキックオフ！～(京橋)
10月20日	ごみゼロ	環境対策	土と平和の祭典 2013(日比谷)
10月25日	未来生活 now	セミナー	丸の内さえずり館 企画展示関連セミナー「東京発！いまこそ有機」(有楽町)
10月26日	ごみゼロ	環境対策	earthgarden 秋(代々木)
11月24日	ASJ 全体	総会	臨時総会で NPO 法人化議決(新宿)
12月12日 -14日	水源、エコ貯、未来生活、 ケータイゴリラ	ブース出展	エコプロダクツ 2013(東京ビッグサイト)
	ごみゼロ	環境対策	
12月22日	ASJ 全体	交流会	A SEED DAY(新宿)
1月23日	ごみゼロ	総会	NPO iPledge 設立総会
1月26日	ケータイゴリラ	ブース出展	アースデイマーケット(代々木)
1月27日	未来生活 now	セミナー	エシカルケータイ実行委員会主催「タックスヘイブン 企業の税金逃れと鉱山開発の関係は？」(神田)
2月9日	エコ貯金	セミナー	エコで身近なお金の循環について考えてみよう！報告会&ワークショップ～(神奈川県)
3月15日	未来生活 now	セミナー	ワカモノ×ミライ「やるのは私だ！若者主役の未来を考える勉強会
3月18日	ケータイゴリラ	講師派遣	神奈川総合高校に講師派遣(神奈川県)

NPO 法人格取得について

ASJ は 2013 年 11 月に臨時総会を開催し、NPO 法人格を取得することを決定しました。その後、準備を進め、3 月末に所轄庁の東京都より NPO 法人として認証を受けました。4 月 1 日に法務局へ NPO 法人の登記申請をして、無事 NPO 法人格を取得しました。

【NPO 法人格を取得した目的について】

大前提として、現在の活動及びこれからの活動を行いやすくするための「道具」として NPO 法人格を取得しています。NPO 法人格を取得したことによって、何か本質的なことが変化したり、活動内容が大幅に変更したりということはありません。今まで通り、ミッションに従って活動を行っていきます。

責任の分散という意味でも NPO 法人格を取得しました。任意団体では代表個人に責任が集中し、現在の予算規模・活動内容ですと、個人が責任を負うのは荷が重い場合もあります。個人一人に責任が集中しないよう、法人として責任が負えるように体制を整えました。

資金調達の面では、助成金や委託事業を獲得する際、法人格を持つことが条件のものも多く、活動をする上で必要な助成金や委託事業を獲得したい時に備え、NPO 法人化したという目的もあります。

【NPO 法人になってからの変更点について】

任意団体の時は、役員（理事・監事）の承認、活動計画や予算の承認は総会での議決事項になっていましたが、今後は理事会での議決事項になるよう定款を定めました。

役員承認に関して、現在 ASJ は活動体の代表は理事になることと定めています。新しく活動体を始める際、もし理事の承認が総会の議決事項にしておくと、活動を始めたいと思っても、年 1 回の通常総会まで待つか、臨時総会を開くかして理事にならないと活動が始められないことになり、活動に機動性がなくなってしまいます。活動計画と予算の承認についても同様で、変更があるたびに、臨時総会を開催するというのは本来の活動に支障をきたすことになってしまいます。以上のような理由で変更をしていますので、ご理解いただくと有難いです。

そして、これからは定款に則った組織の運営をしていくこととなります。この定款も「道具」に過ぎず、私たちの活動にプラスに成るよう定款を使っていかなければなりません。定款に縛られすぎて、本来の活動に支障をきたすことがないように行動していきたいと考えています。

後は会員の皆さまには直接関係してきませんが、毎事業年度初めの 3 ヶ月以内に所轄庁へ事業報告書、決算書類、財産目録、前事業年度の年間役員名簿、前事業年度末日における社員のうち 10 人以上の者の名簿を報告する義務を負うこととなります。

ASJ が設立されてから現在に至るまで、日本や世界でも NGO/NPO の数は増え、活動が成果を上げる一方で、環境問題はより深刻化し、社会を取り巻く状況はさらに複雑化しています。

ボランティアの自発性と ASJ として活動すべきテーマがあるところに、新しい活動はこれからも生まれ続けます。生まれた活動を効果的に継続していき、最大限の成果を挙げられるようにするための NPO 法人格と考えています。

これからも、皆さまのご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。

Panasonic NPO サポートファンド助成「組織及び財政基盤強化事業」

1. 組織及び財政基盤強化事業

ASJ 設立から 23 年が経ち、経済の引き起こす環境・社会問題がますます深刻化する中、2013 年 5 月理事会で「ASJ の組織や財政はこのままではいけない！」という問題意識が共有されました。ASJ 理事会は、組織を生まれ変わらせる覚悟を持って、Panasonic NPO サポートファンド(※)に組織及び財政基盤強化事業を 2013 年 7 月に申請し、2014 年 1 月からの助成が決まりました。

※Panasonic NPO サポートファンドとは、社会課題の解決促進に向けて、国内で先進的な取り組みを展開する NPO 等に対して、第三者の多様で客観的な視点を取り入れて実施する組織基盤強化の取り組みを応援する助成金です。

2. 申請内容

(1) 事業名：組織変革期における組織及び財政基盤強化のための課題抽出・解決案立案

(2) 期間：2014 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日

(3) 体制：ASJ 理事会・事務局及び活動メンバー有志

アドバイザー：謝金は本助成から充当されます。

田尻 佳史氏／認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター

奥田裕之氏／認定 NPO 法人まちぼつと事務局

(4) 組織運営上の問題点・課題について(2013 年 7 月の申請段階で上げたもの)：

① ごみゼロ独立によるブランド力の低下

② ボランティアに占める社会人の増加と高年齢化

③ 財源の不安定化問題

(5) 内容：

2015 年からの組織基盤強化フェーズに向けて、2014 年は課題抽出・解決案立案フェーズとして、毎月の理事会や数回の合宿により課題抽出・深掘りと課題解決プラン立案をする事としました。

3. 実施事項とスケジュールについて

(1) 1 月～5 月：毎月の理事会及び作業部会において、実施内容の詳細を検討

(2) 3 月 7 日～9 日：合宿において中期ビジョンの確認

(3) 4 月 7 日：ASJ 理事・アドバイザー・サポートファンド事務局による全体打合せ

(4) 5 月 17 日～18 日：合宿において課題抽出・深掘り・課題解決プラン立案

(5) 6 月～7 月：課題解決プランの検証・具体化

(6) 7 月 31 日：サポートファンド 2015 年申請〆切

(7) 8 月～12 月：課題解決プランの検証・具体化



アースデイ東京 2014 実行委員会事務局業務

1. アースデイ東京について

アースデイは、4/22を「地球のことを考えて行動する日」として1970年に始まりました。現在は世界175カ国、約5億人が参加する社会運動となっています。アースデイ東京(以下、EDT)は2001年から毎年4/22前後の土日2日間、代々木公園をメイン会場に開催され10万人前後が集まる、日本最大規模の地球フェスティバルです。NGO/NPOを中心とした複数団体による単年度の実行委員会形式で運営されています。

ASJは2013年9月よりEDTと協議を重ねて、2013年12月よりEDT2014実行委員会事務局を開始する事となりました。



2. アースデイ東京 2014 実行委員会事務局業務

(1) 期間：2013年12月1日～2014年8月31日

(2) 体制：ASJ 事務局長宮腰が EDT 事務局長を兼務

宮腰以外に12月～5月までのべ5名を雇用(パートタイム含む、勤務期間は個人による)
うちASJから2名を雇用：浅田麻衣(2013年度共同代表)、笹井純也(事務局ボランティア)

(3) 業務地：ASJ 事務所内に EDT 事務局を設置

(4) 業務内容：①事務局運営：労務管理、会計、備品管理等、実行委員会運営

②イベント制作：協賛対応、広報(WEB、印刷物、記者発表制作)、後援対応、代々木公園対応、ステージ制作、出店管理(飲食・NPO)、ボランティアコーディネート等

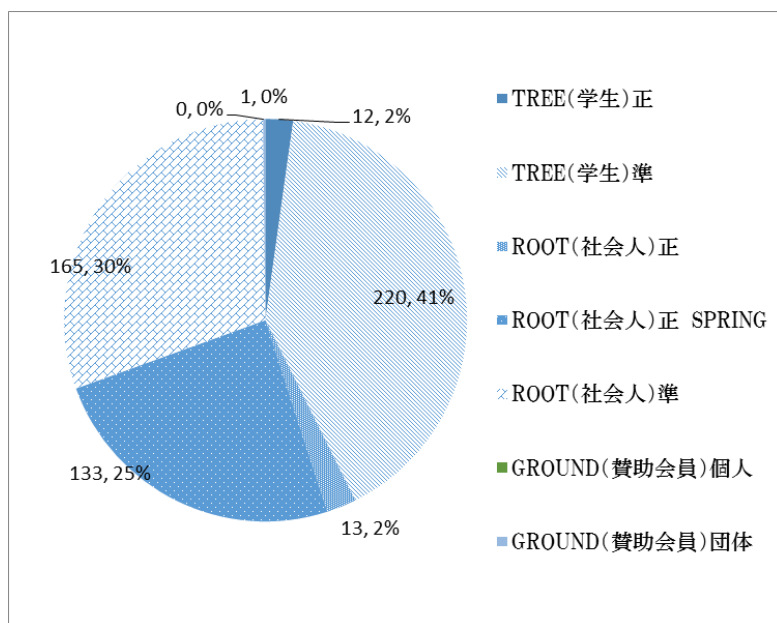


3. アースデイ東京 2014 について

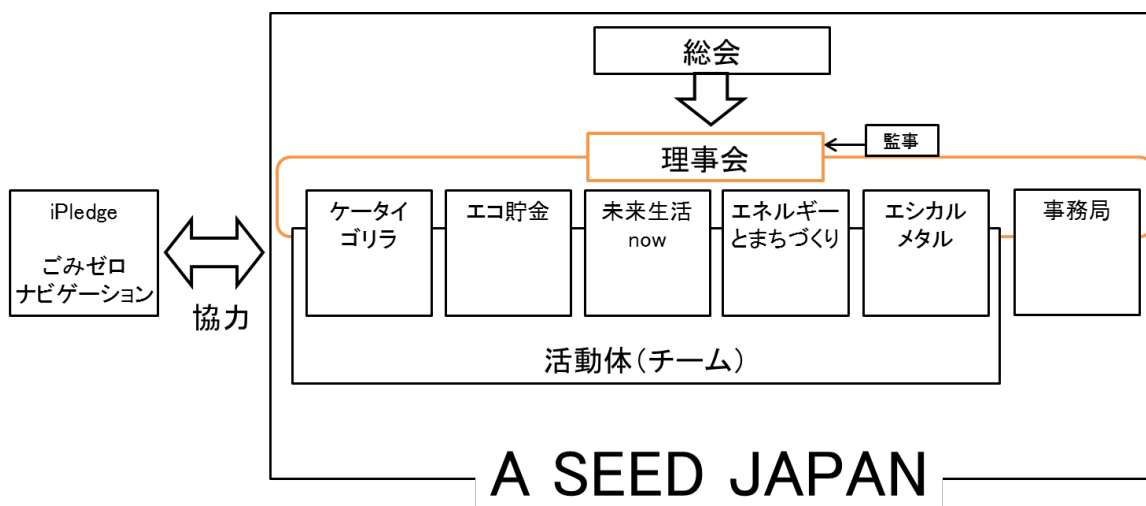
- (1) 主催者： アースデイ東京 2014 実行委員会 (実行委員長 C. W. ニコル)
- (2) 開催期間： 2014年4月19日(土)、20日(日)ほか
- (3) 開催場所： 代々木公園ほか
- (4) テーマ： この地球の声に耳をすまそう
- (5) 来場者： 2日間延べ120,000人(代々木公園会場/2013:90,000人)
- (6) 実行委員 56団体
- (7) ボランティア 340名

2013 年度会員内訳 (2014 年 3 月末時点)

2013年度	実績(名)	割合
TREE (学生) 正	12	2.2%
TREE (学生) 準	220	40.4%
ROOT (社会人) 正	13	2.4%
ROOT (社会人) 正 SPRING	133	24.4%
ROOT (社会人) 準	165	30.3%
GROUND (賛助会員) 個人	0	0.0%
GROUND (賛助会員) 団体	1	0.2%
合計	544	100.0%



組織体制 (2014 年 6 月末時点)



2013 年度役員一覧

理事

氏名	所属	担当	備考
浅田麻衣	首都大学東京大学院	2013 年度共同代表 ケータイゴリラチーム	—
梅本一成	会社員	2013 年度共同代表 エコ貯金プロジェクト	—
大内寛士	上智大学	水源 WATCH! プロジェクト	※2013 年 10 月 26 日まで
鈴木亮	SuzuMedia 主宰	未来生活 now プロジェクト	—
永田諭史	東京大学	ケータイゴリラチーム	2013 年 8 月 25 日から
西島香織	A SEED JAPAN	事務局員／事務局次長	理事:2013 年 5 月 18 日から 事務局次長:2013 年 12 月 21 日から
羽仁カンタ	ごみゼロナビゲーションチーム、FLAT SPACE	ごみゼロナビゲーションチーム	—
浜田恒太郎	会社員	エネルギーとまちづくりプロジェクト	2014 年 1 月 12 日から
宮腰義仁	A SEED JAPAN	事務局長	—

監事

田辺有輝	特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター
------	--------------------------

2014 年度役員一覧

理事

氏名	所属	担当	備考
浅田麻衣	首都大学東京大学院	2014 年度共同代表 人材育成担当	—
梅本一成	会社員	2014 年度共同代表 エコ貯金プロジェクト	—
加治知恵	団体職員	エシカルメタルプロジェクト	—
鈴木亮	SuzuMedia 主宰	未来生活 now プロジェクト	—
永田諭史	東京大学	ケータイゴリラチーム	—
西島香織	A SEED JAPAN	事務局次長	—
浜田恒太郎	会社員	エネルギーとまちづくりプロジェクト	—
宮腰義仁	A SEED JAPAN	事務局長	—

監事

田辺有輝	特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター
------	--------------------------

2013 年度決算 (2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで)

科目・摘要	予算金額	決算小計	決算内訳	達成率	備 考
I 収入の部					
1 会費収入	3,645,500	2,547,397		70%	
TREE：学生正会員	175,000		42,000	24%	12名
TREE：学生準会員	927,000		726,000	78%	242名
ROOT：一般正会員	1,193,500		814,000	68%	148名（口座引き落とし：SPRING会員含む）
ROOT：一般準会員	1,095,000		835,000	76%	167名
特別会費	155,000		125,397	81%	
会費収入 賛助会員	100,000		5,000	5%	
2 事業収入	27,925,738	26,794,003		96%	
プロジェクト横断型事業	1,580,000		2,484,087	157%	講師派遣、イベント企画運営、原稿執筆等
ごみゼロナビゲーションチーム	25,945,738		24,037,946	93%	
エコ貯金プロジェクト	100,000		116,374	116%	
ケータイゴリラチーム	150,000		80,808	54%	
水源WATCH！プロジェクト	50,000		0	0%	
未来生活nowプロジェクト	100,000		74,788	75%	
3 助成金等収入	800,000	1,096,160		137%	
プロジェクト横断型事業	800,000		730,080	91%	
エコ貯金プロジェクト			130,080	-	
未来生活nowプロジェクト			236,000	-	
4 寄付金収入	2,070,000	1,380,745		67%	
A SEED JAPANすべてへ	1,750,000			-	
オリコカード			376,516	-	
SPRING			674,000	-	
その他の寄付			14,519	-	
ごみゼロナビゲーションチーム	50,000		51,723	103%	
エコ貯金プロジェクト	10,000		0	0%	
ケータイゴリラチーム	200,000		249,987	125%	
水源WATCH！プロジェクト	10,000		0	0%	
未来生活nowプロジェクト	50,000		14,000	28%	
5 雑費金	9,075,000	8,713,763		96%	
ごみゼロナビゲーションチーム	9,075,000		8,713,763	-	
6 雑収入	20,000	1,983		10%	
利息等	20,000	0	1,983	-	受取利息
7 事務所利用費	915,000	165,821		18%	
印刷、コピー費	15,000		98,171	654.5	他団体の利用によるもの
内部チーム利用費	700,000		67,650	10%	各チームの印刷代等
当期収入合計 (A)	44,451,238	40,699,872	40,699,872	92%	
前期繰越収支差額		36,338,736			
収入合計 (B)		77,038,608			
II 支出の部					
1 事業費	37,413,363	31,535,744		84%	
プロジェクト横断型事業	860,000		405,904	47%	
ごみゼロナビゲーションチーム	35,803,363		29,900,867	84%	
エコ貯金プロジェクト	100,000		118,710	119%	
ケータイゴリラチーム	500,000		716,644	143%	
水源WATCH！プロジェクト	50,000		4,075	8%	
未来生活nowプロジェクト	100,000		389,544	390%	
2 管理費	9,484,900	16,820,592		177%	
人件費-給与手当	4,560,000		4,899,680	107%	フルタイムスタッフ
人件費-賞与	360,000		0	0%	
人件費-法定福利費	25,000		104,894	420%	雇用保険
地代家賃	2,212,000		1,980,000	90%	
水道光熱費	150,000		170,583	114%	
備品消耗品費	100,000		53,444	53%	
通信費	150,000		192,202	128%	電話、FAX、インターネット代
発送費	150,000		115,380	77%	通常業務発送、定期刊行物発送
印刷費	177,200		205,422	116%	
リース料	252,000		252,000	100%	
旅費交通費	50,000		104,902	210%	スタッフ定期外旅費
研究研修費	20,000		0	0%	
会議費	50,000		8,455	17%	
諸会費	30,000		14,000	47%	
保険料	20,000		16,440	82%	
租税公課	250,000		899,100	360%	
支払手数料	20,000		39,512	198%	
支払寄付金			7,300,000	-	ごみゼロナビゲーションからiPledgeへの寄付
業務委託費	478,700		340,203	71%	ITメンテナンス、税理士・弁護士顧問料
雑費	20,000		4,500	23%	粗大ごみ撤去料等
法人税	70,000		70,000	100%	
減価償却費	0		49,875	-	複合機
予備費	10,000		0	0%	
当期支出合計 (B)	46,898,263	48,356,336	48,356,336		
当期収支差額 (A) - (B)	-2,447,025	-7,656,464	-7,656,464		
前期繰越収支差額 (C)	36,338,736	36,338,736	36,338,736		
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)	33,891,711	28,682,272	28,682,272		

発行：A SEED JAPAN
発行日：2014年8月15日
発行・編集責任者：宮腰義仁
編集：大木梨央、中川馨、西島香織

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-4-23
TEL : 03-5366-7484
Twitter : @ASJ__PR
Facebook : aseedjapan
E-mail : info@aseed.org
Web : <http://www.aseed.org/>



国際青年環境 NGO

A SEED JAPAN